

関学レインボーウィークにむけて

武 田 文

皆さんは、「IDAHOTの日(5.17)」をご存知でしょうか？

1990年5月17日にWHO(世界保健機構)が同性愛を国際疾病分類から除外したことに由来する記念日として、世界130か国以上で「多様な性」について考えるアクションや集まりが持たれています。「IDAHOT(International Day Against HOmophobia and Transphobia、国際反ホモフォビア・反トランスフォビアの日)」として、多様なセクシュアリティのあり方を認め、同性愛者やトランスジェンダー(性同一性障害者を含む)に対する嫌悪を非難する活動が世界中で行われるようになってきています。

一方、関西学院は、ダイバーシティ(多様性)を力とする「垣根なき共同体」を目指して、2010年9月に学院のミッション浸透施策の一環として「インクルーシブ・コミュニティ宣言」(2014年3月改訂)を行いました。その中では、関西学院というコミュニティに集うすべての者—学生・生徒・児童・園児、教員、職員、同窓、およびその家族—が、コミュニティ内の性別、年齢はもとより、国籍、人種、民族、出生地、主たる言語、宗教・信仰、身体的・精神的特徴、そしてセクシュアリティといった違いを尊び、それぞれの能力を発揮できる環境づくりに向けて努力していくことを宣言しています。

こうしたこともあり、関西学院大学では2013年度より、毎年IDAHOTの日の近くの週に、虹のように多様な「カラー」をお互い認め合い、誰もが自らを表現/主張できる自由で楽しい「学びの共同体」を目指して、「関学レインボーウィーク」を開催しています。今年は、「誰にとっても、いきやすい関学に！」というテーマの下、教職員からのメッセージやセクシャリティに関するパネル展(5月11日~15日@3キャンパス〈詳細裏面〉)、ライブ(11日昼休み@中芝)、映画上映+ブチトークセッション(12日5限@大学図書館ホール)などを開催する予定です。

こうした多様性に関するさまざまなイベントを通して、関西学院に集う私たち一人ひとりがコミュニティの中の多様なカラーを享受し、誰にとってもいきやすい関西学院にむけて、アクションをおこしていけるようになることを願っています。

(人間福祉学部教授)